

ダイコンの新品種を育成しています

野菜作物研究部

野菜作物研究部では、白首・総太りで、美味しいダイコン品種の育成を進めています。現在のダイコンの主要品種は、肉質が柔らかで、味にクセが無く、火の通りが良い、根の半分くらいが緑色をした「青首だいこん」が主流になっています。一方で、大根おろし、生酢などの甘さが重要視される料理や煮込み料理には、「三浦だいこん」など白首だいこんの方が適しています。

しかし、「三浦だいこん」は先が太く、重さも3kg以上にもなりますので、収穫には多大な労力がかかるという欠点があります。

そこで、白首で、収穫しやすい円筒形総太りの大根品種の育成に取り組みました。平成15年に最初の交配を行い、選抜と交配を繰り返してきた結果、ここで育種目標に合う系統を得ることができました。

現在は味についての検定も加えた最終段階の選抜を種苗会社や生産者と共同で行っています。試作結果も良かったので、今後、品種登録に向けた現地試験に取り組んでいく予定です。



育成中のダイコン品種

土壌への塩類集積の少ない堆肥「低塩類堆肥」について

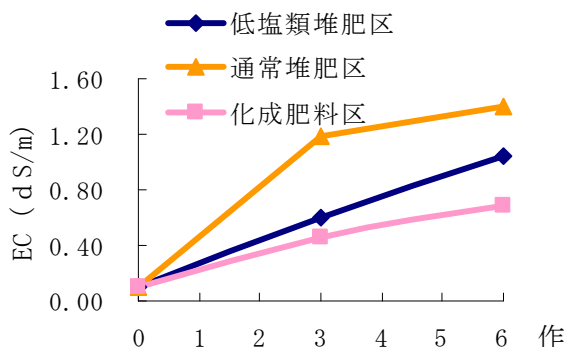
農業環境研究部
畜産技術所

近年、施設栽培を中心に土壌の塩類集積の問題が生じており、塩類濃度の低い堆肥が求められています。そこで、農業技術センター畜産技術所で塩類集積を起こしにくい低塩類堆肥の製造方法を開発し、農業環境研究部ではパイプハウスでコマツナを用いた栽培試験を行い、低塩類堆肥の施用効果を検討しました。

表 低塩類堆肥の成分値(例)

※牛ふん堆肥は参考値

	pH	EC dS/m	C/N比	堆肥乾物中成分%					
				N	C	CaO	MgO	K ₂ O	P ₂ O ₅
低塩類堆肥	7.7	1.9	25	1.9	46.3	1.7	0.4	0.8	1.0
牛ふん堆肥	9.1	9.1	9	3.9	36.0	5.6	2.2	5.7	3.2



栽培試験は、6作連続で低塩類堆肥（乾物1t/10a、現物1.7t）、対照として通常の牛ふん堆肥（同1t/10a、同1.3t）を施用しました。試験の結果、土壌のECや各種成分は牛ふん堆肥施用区と比較して明らかに上昇が抑えられ、コマツナの収量(6作目)は化成肥料区3.7t/10aに対し通常堆肥区3.4t/10a、低塩類堆肥区3.4t/10aと同等でした。以上より、低塩類堆肥は長期的に投入し続けても、収量を維持しながらこれまでの一部牛ふん堆肥のような塩類集積問題の心配が少ないことが示唆されました。

現在、現地農家（ハウスコマツナ）での実証試験も行っており、順調な生育を示しています。今後は、化成肥料の減肥を併用した土壌中の塩類濃度をさらに低減化させていく方法も検討していく予定です。

※本稿の内容は、農林水産省農林水産技術会議事務局委託プロジェクト・地域活性化のためのバイオマス利用技術の開発の一部である、「バイオマス・マテリアル製造技術の開発」(平成19～22年)で行われたものです。